

第 23 回北海道ラージボール大会

相互審判・敗者審判の手引き（ラージボール）

1. 競技開始前

- 選手確認 ゼッケン着用の確認と共に、対戦表との照合。
- ユニフォーム確認 (公財) 日本卓球協会公認用具指定業者のもので公認マークが付いているかどうか。
競技用シャツ、ショーツの主な色は、使用するボールの色と明らかに違う色であるか。
- ラケット確認 ラケットは JTTA、ラバーは表ソフトで JTTA か ITTF から公認されているか。ラバーのはみ出しや欠損はないか、平坦であるか 等。
- サービス・レシーブ・エンド選択の拳
- 試合開始前の練習時間計測（1分以内。）

2. 競技中

- 開始時の宣告 ファーストゲーム ○○ トゥ サーブ。 ラブオール。
- 時間計測 1 ゲーム毎に計測する。開始後 8 分経過した場合は促進ルールが適用され、そのマッチ終了まで継続する。但し、8 分経過時に双方の得点合計が 18 点 (9-9、10-8) 以上の場合は適用されない。促進ルール適用の場合は、本部にストロークカウンターを要請する。
- カウントコール ポイント決定後直ちに宣告 (選手に聞こえるように)。
- レット・ストップ 選手に聞こえるように宣告し、同時に右手を頭上に高く上げる。
- 競技の継続性を促す タオル使用時やポイントの合間が長引かないようにする。
- サービス確認 オープンハンドの状態をのせ 2~3 秒静止させているか。
16cm 以上ほぼ垂直に投げ上げ、落下途中の打球を確認。
サービスが開始されてからボールが打たれるまでの間、ボールは台の表面より高い位置で、かつサーバー側のエンドラインの後方にあるか、レシーバーから見えているか、等
- ゲーム終了宣告 11-X。 ゲーム トゥ ○○。(宣告と同時に勝者側に腕を伸ばす。)
- ゲーム間の計測 1 分以内。超過する前にタイム宣告。
- マッチ終了宣告 11-X。 ゲーム アンド マッチ トゥ ○○。(宣告と同時に勝者側に腕を伸ばす。)

【ハンドシグナル】

1. 1 人審判の場合

カウント器を持ちながらの場合、開始時のサーバーと主にレット、勝者。
必要なときにサーバー。

2. 2 人審判の場合

主審～開始時のサーバー、ポイント、レット、勝者。

副審～ネット、ストップ、副審側のサイド判定。

【時間計測】 練習 1 分、ゲーム 8 分、ゲーム間 1 分

【主審ポイント】

【主審レット】

【副審ネット・ストップ】

